

泉佐野丘陵緑地運営審議会議題の現地視察及び意見交換会 概要

日時：令和元年 8 月 8 日（水）10：00～12：00 場所：泉佐野丘陵緑地 パークセンター

◆会議参加者（敬称略）

【運営審議会委員】

増田（大阪府立大学 特認教授）、前中（元大阪府立大学大学院 教授）、
武田（大阪府立大学 准教授）、那須、久住、大家（泉佐野丘陵緑地パーククラブ） 6名

【泉佐野丘陵緑地パーククラブ】 8名 【大阪府】 4名

◆議題

- ①基礎講習・スキルアップ講座の開催内容について
- ②ゾーニングについて
- ③新しいプログラムについて
- ④除草作業について

◆内容

①基礎講習・スキルアップ講座等の開催内容について

【基礎講習・スキルアップ講習について】

- ・果樹樹木キノコTでは、その地域にあった樹種の選定の考え方や植林した樹木の育て方などのスキルアップがあればよい。
- ・自然の中での遊び方を指導するようなスキルアップがあってもよい。
- ・パークレンジャーになってから具体的に希望する内容についてスキルアップ講習を実施すればよい。しかし、講習を受けても、講師が説明している内容がうまく伝わっていないことがある。人生経験の長い人は特に、自分の考えに合うものはピックアップするが、合わないものは自分でいのように解釈して自分でいように物語を作ってしまうがちである。
- ・イベントは単なる体験で終わらせないように活動の目的や公園内の案内をし、「知識と行動を一体化させる」ことが大切。パーククラブが1時間ぐらい園内で解説できるようになってほしい。
- ・テーマを絞って他のボランティア団体が実施しているガイド等を現地で半日体験してみるのもよい。パーククラブから代表の2～3人を派遣してパーククラブに広げていく方法もよい。

【養成講習の内容について】

- ・パークレンジャーの養成講習でいろいろな学ぶことができることを魅力とを感じる方もいる。
- ・最低限の基礎講座（座学）は必要。
- ・経験も大切であるが、座学も大切なので増やしたほうが良い。実習と講義が半々程度になるイメージで。
- ・パークレンジャーを確保するために、たくさんの人が集まりやすい駅前で講座を開催し、その中から興味を持った人をピックアップする方法もある。

②-1 ゾーニングについて（ハンノキ保全エリアビオトープ）

実施内容(案)：もともとの棚田の土を掘りだして埋土種子を掘り出したい。外来種は取り除く予定。深さは50cm程度掘ってみるが、水が溜まるかはやってみないとわからない。

- ・掘り出した昔の棚田の土は、パレット等で発芽実験をすると面白いのではないかな。
- ・微地形を大切にしてほしい。
- ・埋土種子は外来種が多いと思われるため外来種は取り除くと言いつつ、出てきた植物の何を残すかは、みんなで話をして決めればよい。
- ・近所の子ども数人でもいいので、ビオトープづくりから一緒にできればよい。これから「ビオトープづくりを一緒にしながら年間を通して観察しませんか」などのプログラムにしてはどうか。

②-2 ゾーニングについて（向井池棚田の楽しい半島化）

- ・現地調査をして「使える資源があるか？どの木を残してどう使いたいかな？」などの資源を図面に落としながら議論を進めてほしい。
- ・対岸からの景観にも配慮して検討してほしい。
- ・半島のツバキは人が植栽したもので、由来や歴史が感じられるので生かす形で考えてほしい。
- ・ヤマザクラ等を植栽するのであれば、東地区等も含めた園内の移植可能な1m程度の苗木を探していくことも楽しみとして進めてはどうか。
- ・ヤマザクラの種から苗木を育てる場合は、いろいろな木から採取すると多様性が出て良い。
- ・植栽する種類を最初に考えるのではなく、まずそこをどのような場にするのかを考えてから、種類を考えたほうが良い。
- ・ネザサがあるが、ササは春先（5～6月ごろ）に刈るのが良い。夏以降に刈ると根に栄養分が蓄えられているため刈取の効果が少ない。春先に3年続けて刈ると減ってくる。特にネザサは頻りに刈ると低い丈で維持できる。基本的にはここにあるものを資源としてどう評価して利用するか考えてほしい。

【その他】

- ・虫取りに来る人が多いのでその利用ができるように考えてもいいのではないかな。
- ・原則は持ち出さない、持ち込まないであるが、親子の虫取りまでヒステリックに考える必要はない。
- ・リーディング区域の草刈りもまんべんなく刈るのではなく虫取りができるように草丈の高い区域を作ってはどうか。

③新しいプログラムについて

問題提起：・毎月第〇番目の●曜日に実施していますと統一して募集できた方が継続して参加する方にもわかりやすい。

- ・除草を2時間行うプログラムは困難なので、各チームが連携したプログラムを行うことも考えられるのではないかな。
- ・公園づくりプログラムは通常のチーム活動に一般の人も参加してもらい、みんなで一緒に作りましょう

というスタイルで実施している。今年度は試行として果樹樹木キノコチームだけで実施しているが、来年度は他のチームとも調整したい。

- ・竹林管理も一般の人に参加してもらい一緒に活動できる楽しいプログラムを試験的に実施しようと考えている。
- ・田んぼの除草に苦慮しているため、除草も田植え、稲刈り、脱穀等を1年間の一連のプログラムとして参加してもらうことを検討している。草取りも伝統農具を使用して実施するなど楽しみを持たず工夫は考えているが、実際に参加してくれるかどうかは心配である。
- ・年間で参加してもらうプログラムと単発で参加できるプログラムを併用することを考えてもよい。
- ・除草という言い方はよくない。例えば草地管理といったほうが良い。
- ・2時間で1つプログラムを行う以外にも60分×2つや40分×3つのプログラムを組み合わせるといったことも考えられる。
- ・広報についてはダイレクトメールなどで積極的に案内しないと今の人は参加してくれない。例えばメールマガジンのような情報を発信できるようにできないか。

④除草作業について

- ・拡大した竹を伐採した後については、将来そこをどうするかに応じて、問題にならなければほっておいてもよい。草が生えることが悪いことではない。
- ・予算的制限があるなら予算の範囲内で考えればよい。利用に影響するので園路は刈るが、その他は裾刈のみの区域など、放置するのか草地管理するのかは予算に合わせて方針をきちんと決めるべき。府ができる範囲を明示して調整してはどうか。
- ・草地管理は回数よりもいつ刈るかが大切である。秋刈り、夏刈りなどリーディング区域の園路・広場の使い方を考えて除草ではなく、草地管理、植生管理として進めたほうが良い。

⑤その他

状況説明：ナラ枯れが園内で発生しており、確認した樹木には黄色のロープ、枯死木で伐採予定のものには更に赤のロープを巻く予定。

- ・ナラ枯れの拡大が進めば樹林地内の把握までは困難となる。園路沿いの危険な樹木を中心にしか対応ができない。景観もかなり変わると予想される。

【次回円卓会議について】

- ・2～3か月に1回開催したい。
- ・引き続き今後の泉佐野丘陵緑地の取り組みについて、ご意見をいただきながら進めていきたい。

以上